



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／小野 仁
- 副会長／宮坂有澄・佐藤有司
- 幹事／山岸邦太郎
- 会報・雑誌・広報委員長／林 尚孝

■ 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F

Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939・URL:<http://okayarc.org>・E-mail:okayarc@amber.plala.or.jp

■ 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2554 回例会 2012 年（平成 24 年）1 月 24 日（火）

点 鐘：小野 仁 司 会：高木昭好
齊 唱：それこそロータリー ラッキーNo.：No.5 宮坂有澄

会長挨拶

大寒も過ぎ、もうすぐ立春です。寒さもあとわずかで待望の春がやってきます。個人的な話で恐縮ですが、昨年の大晦日で妻の死去から満5年が経ちました。それまで私は必ず一冬に一回は風邪をひきましたが、この5年間は一回もひきませんでした。病気も一回もしませんでした。決して特別な節制をしたわけではないのですが、多分誰も世話をしてくれる人がいないという緊張感が心の片隅にあったのだと思います。

昔から「病は気から」といわれていますが本当にそうだと思いました。油断しないで記録を伸ばしたいと思っています。そうはいってもまだまだ寒さは続きます。皆様もどうか健康でこの冬を乗り切ってください。

幹事報告

・IMの出欠表を再度、回覧します。多くの方のご参加をお願いします。

日時：3/4(日)・開始：13:00(受付12:30～)・会場：マリオローヤル会館

テーマ：「絆」・講演：「育ち育てる絆」(講師 松井和氏)

例会変更

松本西南RC：2/7(火)→5(日)移動例会に変更。ビジター受付は2/7(火)12時～13時
例会場にて。

委員会報告

国際奉仕委員会 本日例会終了後に埴里RC訪問説明会を行います。よろしくお願
いします。



卓 話 「人事委員会と最近の動きについて」

岡谷商工会議所
会頭 林新一郎様

本日は、皆さんにあまり馴染みの無い、人事委員会という組織とその役割、そしてこれを廃止しよとする最近の動きについて話したいと思います。

【人事委員会とは】

人事院や人事院勧告という言葉はお聞きになったことがあるかもしれません。人事院というのは、国の機関であり、人事院勧告というのは、政府に対し、毎年、今年はこのぐらい給料を上げるべき、下げるべきと勧告を出すことを言います。

この人事院に相当する県の機関が人事委員会です。地方公務員法で都道府県と政令指定都市には、この機関を置くことが義務付けられています。

市町村には人事委員会はありませんが、職員が免職などの処分をされ、この処分に不服のある場合に訴えを出して、本当にこの処分が適切だったかどうか審査を行う公平委員会はあります。つまり、人事委員会の一部の機能は市町村にも置かれています。

【その役割】

職員の採用や昇任、給与や休暇制度など勤務条件の決定、職員の処分といった知事や教育委員会、あるいは警察本部長による人事権の行使をチェックする役割が課されています。

したがって、知事から独立した第三者機関である行政委員会という組織になっています。私も含めて3名の人事委員会委員とその事務局である職員により構成されています。

長野県人事委員 委員長＝林新一郎(株豊島屋) 委員＝田下佳代(弁護士)・市川浩一郎(不二越機械工業株)

民間企業には勿論存在しませんが、何故こんな面倒な形をとっているのでしょうか。いくつか理由があります。

まず、県には教員や警察官も含めて職員が2万5千人ほどおり、ご承知のとおりその仕事も多種多様です。採用や昇任もそれぞれで行われていますが、行政としての公正、中立性も求められます。これを担保するのが人事委員会です。

また、これらの公務員には、民間企業と異なり、給与や勤務条件を決めるための争議権や労働協約の締結権といった労働基本権が法律で与えられていません。制約されています。最も分かり易い例で言いますと、警察官や消防の職員、あるいは学校の教員が給与を上げるとストを起こされたら、社会生活の機能がマヒしてしまいます。こうしたことを防ぐためです。

こうした権利が抑制されている代わりに、人事委員会が設置され、職員の給与や勤務条件について、公正、中立な立場から知事に勧告や報告を行うというしくみになっています。

【具体的にどんなことをしているか】

大きく言えば、職員の採用、給与制度や毎年の給与勧告、不利益処分の不服審査の3

つですが、いくつかの例で具体的にお話します。

今年度の職員採用ですが、主に大卒を対象とした試験区分から警察官、小中学校の事務職員に至るまでの8種類の採用試験を実施し、合計で444名の最終合格者を決定しました。この他、社会人を対象とした中途採用や身体障害者の別枠採用なども行っています。試験の実施から合格者の決定までを人事委員会が行い、この合格者を知事や教育委員会が採用するというしくみにすることにより、情実などの不公正な採用を防ぐ働きをしていることとなります。

また、給与勧告ですが、公務員の給与水準の決定方式は独特です。それは、民間企業のように業績や利益の反映ということが、行政にはできないからです。したがって県内の民間企業のその年の給与水準を調べ、同じような役職ごとに公務員の給与水準と比較するという方式を採用しています。かなり細かな調査と作業をするのですが、一言で言えば、民間企業の給与水準に県職員の給与水準を合わせるということです。

この水準について知事に勧告し、知事は財政状況も踏まえながら給与を決定し、議会の承認を得て職員に支払われるというシステムになっています。

【公務員制度改革の動き】

今まで、現在の人事委員会制度についてお話を進めてきましたが、最後にこうした制度を抜本的に見直ししようという動きについて若干触れたいと思います。

それは公務員制度改革です。地方公務員については、まだ制度設計中ですが、国家公務員については現在の民主党政権により法案が国会に出ていますので、基本的には同じ流れに動いていく可能性があります。

内容ですが、労働基本権の一部である協約締結権を国家公務員に与え、民間と同様に給与を労使交渉で決定できるようにし、これに伴い人事院は廃止するというものです。この「国家公務員制度改革関連法案」が国会に提出されましたが、成立の見込みが立たず、現在継続審議になっています。

私の立場上、この法案への賛否は申し上げませんが、まだまだ十分な議論と検討が必要ではないかと思っています。どうか皆さんも注視していただきたいと思います。

本日は、人事委員会制度という、民間企業にはない行政のなかのお話をさせていただきましたが、少しでも心にとめていただければ幸いです。



岡谷商工会議所
会頭 林 新一郎

長野経済研究所
経済月報6月号所載

みんなが泣いた そして立ち上がった

平成18年7月(市制施行70周年の年)、岡谷市は市制始めて以来の豪雨災害に見舞われた。それまでは自然災害で亡くなった方がいない市と言われており、災害に強い安全の街であったが8名もの尊い命が失われてしまった。

当時市長だった私は寝食を忘れ対応に没頭した。この時の苦渋の経験を発表してくれとの依頼が全国各県の防災フォーラム等よりあり、つたない経験談をお話しさせていただいてきたが、平成23年3月11日の東日本大震災は私の講演の及ぶもつかない大規模複合型災害であることを日ごとに思い知らされ慄然となった。

県内製造業の多くもサプライチェーンの損傷により生産活動に支障を来している。のみならず風評被害は農水産物ばかりか工業製品にまで及んでおり由々しき事態となっている。加えて長野県の主要産業である観光関連も外国人旅行者によって潤っていたが、放射能問題によるキャンセルや国内の自粛ムードで大幅な収入減となっている。

未曾有の災害に遭遇したわれわれ日本人は、今こそ冷静に過去の災害履歴に学び遠謀深慮の復興計画を立てなければならない。国

の財政も地方の財政も危機的状況下での復興は並大抵ではないが、政府の強いリーダーシップと野党の幾多の災害を克服した経験をもって対処することを切望する。

財政の裏付けとなる経済復興が大きな鍵となることは言うまでもない。原発事故の早期終息、生産設備(サプライヤー)の復旧、電力不足への対策、すべてが民間企業では限界がある。政府は税収の源となる経済復興政策をしっかりと立案しなければならない。

今回の東日本大震災の直接的被害として、生産設備(資本ストック)の毀損額は16~25兆円、名目GDPの3~5%の毀損率と言われている。過去の災害と比較すると関東大震災では毀損額46億円、名目GDPの29%の毀損率であり、太平洋戦争では毀損額643億円、名目GDPの86%の毀損率である。また阪神・淡路大震災では毀損額9.9兆円、名目GDPの2%の毀損率と言われている。

完膚なきまでに打ちのめされた先の大戦の惨禍から困苦欠乏に耐え、経済大国と言われるまでになった日本。

日本人の絆を信じ 負けるな東北

立ち上がろう日本!!

ニコニコボックス

井上保子・太田博久・小口成人・小口雅弘・小野 仁・笠原新太郎・北澤洋之介・北村正春・小松正二・佐藤有司・杉田隆夫・瀬戸雅三・高木昭好・竹村一幸・塚田保則・中嶋孝一・濱 俊弘・林 尚孝・林 靖高・原 史郎・平沢清文・藤森睦美・宮坂宥洪・宮坂宥澄・宮澤由己・矢島 進・山岡晴男・山岡正邦・山岸邦太郎 岡谷商工会議所会頭 林新一郎様ようこそお越しくございました。卓話、よろしくお願ひします。

出席報告

会員数46名、出席者32名、出席率72.73%、前々回訂正86.05%

2011-2012 年度R I テーマ
こころの中を見つめよう
博愛を広げるために
Reach Within to Embrace Humanity

